

浜の活力再生プラン

1 地域水産業再生委員会

組織名	西網走地区地域水産業再生委員会
代表者名	大 高 隆 吉

再生委員会の 構成員	西網走漁業協同組合、網走市
オブザーバー	北海道オホーツク総合振興局産業振興部水産課 北海道漁業協同組合連合会北見支店

※再生委員会規約及び推進体制の分かる資料を添付すること。

対象となる地域の 範囲及び漁業の種 類	地域	北海道網走市及び大空町女満別	
	漁業	対象漁業種類	着業者数
		・ワカサギ漁業	30名
		・シジミガイ漁業	40名
		・ホタテガイ漁業	32名
		・刺網漁業(カレイ等)	32名
		・その他兼業	
		(ホツカイシマエビ籠漁業、ツブ籠漁業、シラウオ漁業 ウニ・ナマコ桁網漁業)	
	漁業者数	正組合員72名	

※策定時点で対象となる漁業者数も記載すること。

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

西網走地区地域水産業再生委員会が所管する地区は、北海道の北東部オホーツク管内の南部に位置しており、網走湖、能取湖及び網走川など周辺河川を中心に農業、畜産業、林業、漁業といった第一次産業が盛んな地域である。

西網走漁業協同組合は、北海道では最大規模の内水面漁業協同組合であり、72名の組合員が網走湖、能取湖及び網走川など周辺河川を漁場として営んでおり、平成25年の水揚げ量は約4,000t、水揚げ金額は約13億円で、地域の基幹産業として重要な役割を果たしている。

当地区の主要魚種は、ホタテガイ(稚貝・成貝)、シジミガイ、ワカサギで、シジミガイは北海道全体の8割強を生産しており、またワカサギは漁獲した親魚から生産した種卵を道外含む各地に供給している。

しかし、水揚げ量は年変動が大きく、また魚価についても主要産地の漁獲状況により影響を受けやすい状況から、安定的な漁業経営には至っておらず、増養殖事業及び資源管理の推進による水揚げの安定及び他産地の漁獲に左右されない単価形成が地域の課題となっている。

漁業者の経営経費に大きな割合を占めている漁船燃油環境については、長引く原油取引価格の高止まりや円安により、漁業用燃料はもとより資材等の漁業経費の増加を招き漁業経営を圧迫しており、経営補削減に向けた取り組みを進める必要がある。

また、網走湖内の唯一の漁港である第1種呼人漁港は、特に港内の静穏度が悪く、漁船の係船に支障があることから、漁港整備による対策が求められている。

(2) その他の関連する現状等

当地区で生産される水産物は、その多くが地域の特産物として、観光土産、地域イベント等で利用されている。また、観光協会と連携して、観光客・市民向けに夏のシジミ採捕、冬のワカサギ釣りをを行っている。その利用者は年々増加しており、水産と観光を結びつけた地域活性化に取り組んでいる。

当地区は、環境の変化による影響を受けやすい内水面を漁場としていることから、持続的に水産資源を利用するべく環境保全活動（植樹、清掃活動、周辺パトロール、水質モニタリング、シンポジウム開催等）に積極的に取り組んでおり、この活動の継続、さらなる発展を目指して、周辺自治体、農協、森林組合、大学、研究機関等各団体と連携・一般市民への啓蒙を図る組織の立ち上げを進めている。

3 活性化の取組方針

(1) 基本方針

現状とこれまでの取組を踏まえ、水産資源、魚価、経費削減に係る対策に取り組み、所得向上を目指し、漁業経営の安定を図る。

①水産資源の安定増大と資源を保全する取組

- ・害敵駆除等による漁場改善（ホタテ、ワカサギ）、一定サイズ以上での稚貝等の放流（ホタテ）による持続的な資源利用と資源保護、維持増大
- ・シジミガイ増殖事業の実施や、網走川における天然貝の産卵状況調査等（河川管理者へ産卵に必要な塩分濃度の確保のための海水導水についての依頼を含む）の実施による資源増産
- ・ワカサギ、クロガシラカレイの人工種苗の生産手法の開発
- ・全漁業者及び漁協による清掃・植樹などの漁場環境、水産資源の保全活動

②魚価向上や販路拡大の取組

- ・シジミガイの風評被害を防止し価格の向上を図るための関係機関と連携した食味試験や臭気分析試験の実施や低品質のシジミの品質改善技術の普及・徹底
- ・近隣市町でのイベントへの参加、ホテル・飲食店などと連携した水産フェアの開催による知名度向上と販路・消費の拡大
- ・地元小学校への出前水産教室の開催により、地域の魚食普及の推進による「魚離れ」対策と消費の拡大

③経費の削減の取組

- ・省エネ機器等の導入による漁業用燃油経費の削減
- ・効率的な操業体制の確立及び休漁日等の設定による漁業用燃油経費の削減
- ・漁場までの低速航行の徹底や船底・プロペラ清掃による省燃油活動
- ・漁業経営セーフティネット構築事業への加入促進
- ・協業化による操業経費の節減、経営の合理化
- ・漁港整備促進による、漁船修理費の低減と効率的な操業による漁業経費の削減

(2) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

- ・共同漁業権における規制・制限措置の設定
- ・資源調査、稚仔発生量調査、産卵調査を実施し資源の持続的利用を図っていく。

※プランの取組に関連する漁業調整規則や漁業調整委員会指示等について記載する。

(3) 具体的な取組内容（毎年ごとに数値目標とともに記載）

1年目（平成26年度）

以降、以下の取組み内容は、取組みの進捗状況や得られた知見等を踏まえ、必要に応じて見直すこととする。

漁業収入向上のための取組	<ul style="list-style-type: none">・ホタテガイ漁業者32名及び漁協は、能取湖において、ホタテ稚貝の放流直前の4～5月頃にヒトデ等の害敵駆除を行うことで漁場の改善に努めるとともに、ホタテ稚貝を従来より大きいサイズ（3.5cm→4cm）にて放流することにより、稚貝の育成促進及び生残率向上や漁獲サイズの大型化に努め、安定した水揚げの確保と漁獲量の向上及び漁価向上を目指す。・シジミガイ漁業者40名及び漁協は、新たにシジミガイの人工種苗生産・種苗放流に取り組むとともに、網走湖において、シジミ種苗の放流直前に漁場耕耘を行うなど漁場の改善に努めることで、資源量の増加を目指す。また、シジミガイの品質確保による価格の安定と食品としての安全性向上を図るべく、関係機関と連携して食味試験や臭気分析試験を実施するとともに、臭気分析により原因物質が基準を超えた場合、一定時間水槽にて畜養し、基準以下となることを確認してから出荷するなど、低品質のシジミガイの品質改善技術の向上を図るための手法を定め、それを適切に実施するための研修会を開催する。 また、天然貝の産卵を促すため、漁業者は産卵状況の把握に努めるとともに、網走川可動堰を管理している北海道開発局に対して、産卵に必要な塩分濃度を確保できるよ・ワカサギ漁業者30名及び漁協は、網走湖において、全国各地からの活卵出荷の要望に応えるため、新たにワカサギの人工種苗生産・種苗放流に取り組むとともに、放流直前の5月頃にトゲウオ等の害敵駆除に努めることで資源量の増加を目指す。・刺網漁業者32名及び漁協は、能取湖において、新たにクロガシラガレイの人工種苗生産・種苗放流に取り組むことで資源量の増加を目指す。放流後の生残率等の状況把握に努め、必要に応じて、研究機関の協力を得て原因調査を行い、その対策に努める。・シラウオ漁業者及び漁協は、漁獲の大半が道外に流通しているシラウオについて、品質管理強化による魚価向上を目指して、トレーサビリティの導入についての検討を行う。・全漁業者及び漁協は水産資源の維持、増大及び持続的利用を目指して、関係機関と連携して、網走湖、能取湖及び周辺河川の環境の保全を推進する活動（清掃・植樹活動等）に取り組む。 また、網走市やと連携し、近隣市町及び大消費地への販売促進活動を行うための販売戦略を定めるとともに、観光協会等関連団体とも連携し、イベント開催や道の駅での販売促進、観光資源としての活用強化のため、地元ホテル・飲食店との共同企画による水産フェアを通じて知名度アップに取り組む。 また、小学校での出前水産授業、親子水産学校、料理教室などを通じた魚食普及による消費拡大、PR活動の強化に取り組む。 <p>これらの取組みにより、基準年より0.5%の収入向上を目指す。</p>
--------------	--

<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全漁業者は、漁船の環境対応型機関（排ガス規制・省エネ対応）への換装により燃料使用量を抑え、コストの削減を図る。 ・全漁業者は漁船上架時の船底・プロペラ清掃の実施や減速航行の徹底及び漁場情報の共有により、燃費向上による漁業経費の削減を図る。 ・関係漁業者は協同経営化による漁船隻数の削減に取り組み、漁業経費の削減を図る。 ・関係漁業者及び漁協は、第1種呼人漁港の静穏状況が悪く施設利用が困難となっていることから、沖止まりや河川護岸等の利用を強いられており、こうした漁業生産活動の非効率性を解消するため、整備促進等を国及び北海道へ要望するとともに、入出港の安全性確保による漁船の破損防止や沖止まり等による時間や経費の削減を図る。 <p>これらの取り組みにより、基準年より0.6%の経費削減を見込む。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漁村再生交付金（国） ・省燃油活動推進事業（国） ・漁業経営セーフティネット構築事業（国）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none">・ホタテガイ漁業者32名及び漁協は、能取湖において、ホタテ稚貝の放流直前の4～5月頃にヒトデ等の害敵駆除を行うことで漁場の改善に努めるとともに、ホタテ稚貝を従来より大きいサイズ（3.5cm→4cm）にて放流することにより、稚貝の育成促進及び生残率向上や漁獲サイズの大型化に努め、安定した水揚げの確保と漁獲量の向上及び魚価向上を目指す。 ・シジミガイ漁業者40名及び漁協は、新たにシジミガイの人工種苗生産・種苗放流に取り組むとともに、網走湖において、シジミ種苗の放流直前に漁場耕耘を行うなど漁場の改善に努めることで、資源量の増加を目指す。また、シジミガイの品質確保による価格の安定と食品としての安全性向上を図るべく、関係機関と連携して食味試験や臭気分析試験を実施するとともに、臭気分析により原因物質が基準を超えた場合、一定時間水槽にて畜養し、基準以下となることを確認してから出荷するなど、低品質のシジミガイの品質改善技術の向上を図るための手法を定め、それを適切に実施するための研修会を開催する。 また、天然貝の産卵を促すため、漁業者は産卵状況の把握に努めるとともに、網走川可動堰を管理している北海道開発局に対して、産卵に必要な塩分濃度を確保できるよ・ワカサギ漁業者30名及び漁協は、網走湖において、全国各地からの活卵出荷の要望に応えるため、新たにワカサギの人工種苗生産・種苗放流に取り組むとともに、放流直前の5月頃にトゲウオ等の害敵駆除に努めることで資源量の増加を目指す。・刺網漁業者32名及び漁協は、能取湖において、新たにクロガシラガレイの人工種苗生産・種苗放流に取り組むことで資源量の増加を目指す。放流後の生残率等の状況把握に努め、必要に応じて、研究機関の協力を得て原因調査を行い、その対策に努める。・シラウオ漁業者及び漁協は、漁獲の大半が道外に流通しているシラウオについて、品質管理強化による魚価向上を目指して、トレーサビリティの導入についての検討を行う。 ・全漁業者及び漁協は水産資源の維持、増大及び持続的利用を目指して、関係機関と連携して、網走湖、能取湖及び周辺河川の環境の保全を推進する活動（清掃・植樹活動等）に取り組む。 また、網走市やと連携し、近隣市町及び大消費地への販売促進活動を行うための販売戦略に基づき、観光協会等関連団体とも連携し、イベント開催や道の駅での販売促進、観光資源としての活用強化のため、地元ホテル・飲食店との共同企画による水産フェアを通じて知名度アップに取り組む。 また、小学校での出前水産授業、親子水産学校、料理教室などを通じた魚食普及による消費拡大、PR活動の強化に取り組む。 <p>これらの取り組みにより、基準年より1.0%の収入向上を目指す。</p>
---------------------	---

<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全漁業者は、漁船の環境対応型機関（排ガス規制・省エネ対応）への換装により燃料使用量を抑え、コストの削減を図る。 ・全漁業者は漁船上架時の船底・プロペラ清掃の実施や減速航行の徹底及び漁場情報の共有により、燃費向上による漁業経費の削減を図る。 ・関係漁業者は協同経営化による漁船隻数の削減に取り組み、漁業経費の削減を図る。 ・関係漁業者及び漁協は、第1種呼人漁港の静穏状況が悪く施設利用が困難となっていることから、沖止まりや河川護岸等の利用を強いられており、こうした漁業生産活動の非効率性を解消するため、整備促進等を国及び北海道へ要望するとともに、入出港の安全性確保による漁船の破損防止や沖止まり等による時間や経費の削減を図る。 <p>これらの取り組みにより、基準年より0.6%の経費削減を見込む。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漁村再生交付金（国） ・漁業経営セーフティネット構築事業（国）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ホタテガイ漁業者32名及び漁協は、能取湖において、ホタテ稚貝の放流直前の4～5月頃にヒトデ等の害敵駆除を行うことで漁場の改善に努めるとともに、ホタテ稚貝を従来より大きいサイズ（3.5cm→4cm）にて放流することにより、稚貝の育成促進及び生残率向上や漁獲サイズの大型化に努め、安定した水揚げの確保と漁獲量の向上及び魚価向上を目指す。 ・シジミガイ漁業者40名及び漁協は、新たにシジミガイの人工種苗生産・種苗放流に取り組むとともに、網走湖において、シジミ種苗の放流直前に漁場耕耘を行うなど漁場の改善に努めることで、資源量の増加を目指す。また、シジミガイの品質確保による価格の安定と食品としての安全性向上を図るべく、関係機関と連携して食味試験や臭気分析試験を実施するとともに、臭気分析により原因物質が基準を超えた場合、一定時間水槽にて畜養し、基準以下となることを確認してから出荷するなど、低品質のシジミガイの品質改善技術の向上を図るための手法を定め、それを適切に実施するための研修会を開催する。 また、天然貝の産卵を促すため、漁業者は産卵状況の把握に努めるとともに、網走川可動堰を管理している北海道開発局に対して、産卵に必要な塩分濃度を確保できるよ ・ワカサギ漁業者30名及び漁協は、網走湖において、全国各地からの活卵出荷の要望に応えるため、新たにワカサギの人工種苗生産・種苗放流に取り組むとともに、放流直前の5月頃にトゲウオ等の害敵駆除に努めることで資源量の増加を目指す。 ・刺網漁業者32名及び漁協は、能取湖において、新たにクロガシラガレイの人工種苗生産・種苗放流に取り組むことで資源量の増加を目指す。放流後の生残率等の状況把握に努め、必要に応じて、研究機関の協力を得て原因調査を行い、その対策に努める。 ・シラウオ漁業者及び漁協は、漁獲の大半が道外に流通しているシラウオについて、品質管理強化による魚価向上を目指して、トレーサビリティの導入についての試行を行う。 ・全漁業者及び漁協は水産資源の維持、増大及び持続的利用を目指して、関係機関と連携して、網走湖、能取湖及び周辺河川の環境の保全を推進する活動（清掃・植樹活動等）に取り組む。 また、網走市やと連携し、近隣市町及び大消費地への販売促進活動を行うための販売戦略に基づき、観光協会等関連団体とも連携し、イベント開催や道の駅での販売促進、観光資源としての活用強化のため、地元ホテル・飲食店との共同企画による水産フェアを通じて知名度アップに取り組む。 また、小学校での出前水産授業、親子水産学校、料理教室などを通じた魚食普及による消費拡大、PR活動の強化に取り組む。 これらの取り組みにより、基準年より1.4%の収入向上を目指す。
---------------------	---

<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全漁業者は、漁船の環境対応型機関（排ガス規制・省エネ対応）への換装により燃料使用量を抑え、コストの削減を図る。 ・全漁業者は漁船上架時の船底・プロペラ清掃の実施や減速航行の徹底及び漁場情報の共有により、燃費向上による漁業経費の削減を図る。 ・関係漁業者は協同経営化による漁船隻数の削減に取り組み、漁業経費の削減を図る。 ・関係漁業者及び漁協は、第1種呼人漁港の静穏状況が悪く施設利用が困難となっていることから、沖止まりや河川護岸等の利用を強いられており、こうした漁業生産活動の非効率性を解消するため、整備促進等を国及び北海道へ要望するとともに、入出港の安全性確保による漁船の破損防止や沖止まり等による時間や経費の削減を図る。 <p>これらの取り組みにより、基準年より0.6%の経費削減を見込む。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漁村再生交付金（国） ・漁業経営セーフティネット構築事業（国）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ホタテガイ漁業者32名及び漁協は、能取湖において、ホタテ稚貝の放流直前の4～5月頃にヒトデ等の害敵駆除を行うことで漁場の改善に努めるとともに、ホタテ稚貝を従来より大きいサイズ（3.5cm→4cm）にて放流することにより、稚貝の育成促進及び生残率向上や漁獲サイズの大型化に努め、安定した水揚げの確保と漁獲量の向上及び魚価向上を目指す。 ・シジミガイ漁業者40名及び漁協は、新たにシジミガイの人工種苗生産・種苗放流に取り組むとともに、網走湖において、シジミ種苗の放流直前に漁場耕耘を行うなど漁場の改善に努めることで、資源量の増加を目指す。また、シジミガイの品質確保による価格の安定と食品としての安全性向上を図るべく、関係機関と連携して食味試験や臭気分析試験を実施するとともに、臭気分析により原因物質が基準を超えた場合、一定時間水槽にて畜養し、基準以下となることを確認してから出荷するなど、低品質のシジミガイの品質改善技術の向上を図るための手法を定め、それを適切に実施するための研修会を開催する。 また、天然貝の産卵を促すため、漁業者は産卵状況の把握に努めるとともに、網走川可動堰を管理している北海道開発局に対して、産卵に必要な塩分濃度を確保できるよ ・ワカサギ漁業者30名及び漁協は、網走湖において、全国各地からの活卵出荷の要望に応えるため、新たにワカサギの人工種苗生産・種苗放流に取り組むとともに、放流直前の5月頃にトゲウオ等の害敵駆除に努めることで資源量の増加を目指す。 ・刺網漁業者32名及び漁協は、能取湖において、新たにクロガシラガレイの人工種苗生産・種苗放流に取り組むことで資源量の増加を目指す。放流後の生残率等の状況把握に努め、必要に応じて、研究機関の協力を得て原因調査を行い、その対策に努める。 ・シラウオ漁業者及び漁協は、漁獲の大半が道外に流通しているシラウオについて、品質管理強化による魚価向上を目指して、トレーサビリティの導入についての試行を行う。 ・全漁業者及び漁協は水産資源の維持、増大及び持続的利用を目指して、関係機関と連携して、網走湖、能取湖及び周辺河川の環境の保全を推進する活動（清掃・植樹活動等）に取り組む。 また、網走市やと連携し、近隣市町及び大消費地への販売促進活動を行うための販売戦略に基づき、観光協会等関連団体とも連携し、イベント開催や道の駅での販売促進、観光資源としての活用強化のため、地元ホテル・飲食店との共同企画による水産フェアを通じて知名度アップに取り組む。 また、小学校での出前水産授業、親子水産学校、料理教室などを通じた魚食普及による消費拡大、PR活動の強化に取り組む。 これらの取り組みにより、基準年より1.9%の収入向上を目指す。
---------------------	---

<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全漁業者は、漁船の環境対応型機関（排ガス規制・省エネ対応）への換装により燃料使用量を抑え、コストの削減を図る。 ・全漁業者は漁船上架時の船底・プロペラ清掃の実施や減速航行の徹底及び漁場情報の共有により、燃費向上による漁業経費の削減を図る。 ・関係漁業者は協同経営化による漁船隻数の削減に取り組み、漁業経費の削減を図る。 ・関係漁業者及び漁協は、第1種呼人漁港の静穏状況が悪く施設利用が困難となっていることから、沖止まりや河川護岸等の利用を強いられており、こうした漁業生産活動の非効率性を解消するため、整備促進等を国及び北海道へ要望するとともに、入出港の安全性確保による漁船の破損防止や沖止まり等による時間や経費の削減を図る。 <p>これらの取り組みにより、基準年より0.6%の経費削減を見込む。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漁村再生交付金（国） ・漁業経営セーフティネット構築事業（国）

5年目（平成30年度）

取組の最終年度であり、前年度に引き続き行いが、目標達成が確実なものとなるよう、プランの取り組み状況を確認しつつ、必要に応じて施策の見直しを行う。

漁業収入向上の
ための取組

・ホタテガイ漁業者32名及び漁協は、能取湖において、ホタテ稚貝の放流直前の4～5月頃にヒトデ等の害敵駆除を行うことで漁場の改善に努めるとともに、ホタテ稚貝を従来より大きいサイズ（3.5cm→4cm）にて放流することにより、稚貝の育成促進及び生残率向上や漁獲サイズの大型化に努め、安定した水揚げの確保と漁獲量の向上及び漁価向上を目指す。

・シジミガイ漁業者40名及び漁協は、新たにシジミガイの人工種苗生産・種苗放流に取り組むとともに、網走湖において、シジミ種苗の放流直前に漁場耕耘を行うなど漁場の改善に努めることで、資源量の増加を目指す。また、シジミガイの品質確保による価格の安定と食品としての安全性向上を図るべく、関係機関と連携して食味試験や臭気分析試験を実施するとともに、臭気分析により原因物質が基準を超えた場合、一定時間水槽にて畜養し、基準以下となることを確認してから出荷するなど、低品質のシジミガイの品質改善技術の向上を図るための手法を定め、それを適切に実施するための研修会を開催する。

また、天然貝の産卵を促すため、漁業者は産卵状況の把握に努めるとともに、網走川可動堰を管理している北海道開発局に対して、産卵に必要な塩分濃度を確保できるよ

・ワカサギ漁業者30名及び漁協は、網走湖において、全国各地からの活卵出荷の要望に応えるため、新たにワカサギの人工種苗生産・種苗放流に取り組むとともに、放流直前の5月頃にトゲウオ等の害敵駆除に努めることで資源量の増加を目指す。

・刺網漁業者32名及び漁協は、能取湖において、新たにクロガシラガレイの人工種苗生産・種苗放流に取り組むことで資源量の増加を目指す。放流後の生残率等の状況把握に努め、必要に応じて、研究機関の協力を得て原因調査を行い、その対策に努める。

・シラウオ漁業者及び漁協は、漁獲の大半が道外に流通しているシラウオについて、品質管理強化による魚価向上を目指して、トレーサビリティを導入する。

・全漁業者及び漁協は水産資源の維持、増大及び持続的利用を目指して、関係機関と連携して、網走湖、能取湖及び周辺河川の環境の保全を推進する活動（清掃・植樹活動等）に取り組む。

また、網走市やと連携し、近隣市町及び大消費地への販売促進活動を行うための販売戦略に基づき、観光協会等関連団体とも連携し、イベント開催や道の駅での販売促進、観光資源としての活用強化のため、地元ホテル・飲食店との共同企画による水産フェアを通じて知名度アップに取り組む。

また、小学校での出前水産授業、親子水産学校、料理教室などを通じた魚食普及による消費拡大、PR活動の強化に取り組む。

これらの取り組みにより、基準年より2.4%の収入向上を目指す。

<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全漁業者は、漁船の環境対応型機関（排ガス規制・省エネ対応）への換装により燃料使用量を抑え、コストの削減を図る。 ・全漁業者は漁船上架時の船底・プロペラ清掃の実施や減速航行の徹底及び漁場情報の共有により、燃費向上による漁業経費の削減を図る。 ・関係漁業者は協同経営化による漁船隻数の削減に取り組み、漁業経費の削減を図る。 ・関係漁業者は、整備された第1種呼人漁港を活用し、入出港の安全性を確保にするとともに、漁船の破損防止や沖止まり等による時間や経費の削減を図る。 <p>これらの取り組みにより、基準年より0.6%の経費削減を見込む。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業経営セーフティネット構築事業（国）

※「活用する支援措置等」欄に記載するのは国の支援措置に限らない。

(4) 関係機関との連携

取組の効果が高められるよう、構成員である網走市はもとより、漁協内各部会や各関係団体との連携を密にするとともに、オブザーバーである北海道、各系統団体への支援、協力を求めながらプランの取り組みを遂行する。

4 目標

(1) 数値目標

漁業所得の向上 %以上	基準年	平成 年度 : 漁業所得	千円
	目標年	平成 年度 : 漁業所得	千円

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

※算出の根拠及びその方法等について詳細に記載し、必要があれば資料を添付すること。

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
漁村再生交付金 (国)	呼人漁港における突堤等の整備等による静穏対策により、効率的で安全な漁業活動が図られる。
省燃油活動推進事業 (国)	省エネ活動の実践により、燃油消費量を削減する。
漁業経営セーフティネット構築事業 (国)	燃油高騰などの経済的環境変化による影響を緩和し、漁労経費削減により漁業経営の安定を図る。

※具体的な事業名が記載できない場合は、「事業名」は「未定」とし、「事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性」のみ記載する。

※本欄の記載により、関連施策の実施を確約するものではない。